



～ 今後日本の犬社会が目指すものは？ ～

ドイツ・犬物語③「地雷にご用心！」

好評連載 第3弾!

「子供と犬はドイツ人に育てさせろ」

この格言めいた言葉を、ドイツに行ったこともないはずの母の口から、昔何度も聞かされた。まだ子供だった私には、オーストリアとドイツの区別がつかず、映画『サウンド・オブ・ミュージック』に登場する大佐の厳しい父親像を見て、この母の言葉に至極納得したものだった。

実際ドイツに来てみると、確かにリードなしでも飼い主にピッタリ寄り添って歩く犬や肉屋の前でお座りをして買い物を待っている犬が当たり前。完璧に躡がけに行き届いている。それだけに、飼い主の行儀の悪さには、本当にビックリした。何故ならば…、街中糞だらけ…なのだ!



石畳の歩道のあちこちにポツンポツン。中にはすでに誰かが踏んだ形跡があるものも。街路樹の根元など、少しでも土のある所には糞が山盛りになっていたりする。都会の犬がわずかに残された自然を求めているのかと思うと胸が痛むが、見てはいけないうるを見てしまった気がして憂鬱になる。

ベルリンには15万頭の犬がいるとされ、毎日40万トン、1年間に総数1億4600万個の糞が排出され、そのほとんどが放置されたままだと市の清掃局は発表している。「糞の処理は、飼い主もしくは犬を連れてくる人の責任」と「道路清掃法18条第3項」で定められているにもかかわらず、なぜこんな事態になっているのだろうか?

その理由の一つは、犬税(1匹目120ユーロ、2匹目からは180ユーロ)を払っているから処理をしなくても良いと飼い主が思い込んでいること。散歩の現場では、糞を持ち歩くのがイヤ、近くにゴミ箱がないのがいけないという言い訳を聞く。糞の放置は35ユーロの罰金だが、取り締り職員が犯行現場に居あわせることなどほとんどありえず、全く意味をなしていない。

結局は、清掃局が回収することになるのだが、自分の愛犬のものだからこそ我慢できるのであって、赤の他人のペットの糞処理をさせられるなんて、たまったものではないだろう。

そんななかで、半年ほど前に新兵器が登場した。民間企業が清掃局の協力を得て、50台のドッグ・ステーションを設置したのだ。無料で紙袋を引き出せるようになっていて、足元のペダルを踏むとゴミ箱が開く。紙袋はスコップがなくても手を汚さず糞を上手にすくい取れるように工夫されているし、普段はゴミ箱部分が密閉されていて臭いもしなければ視覚上も気にならない。1年の試行期間の効果を見て、今後増設するか方針を決めるらしい。この会社は、糞回収スクーターなるものも開発したが、安全上の問題からまだ導入されていない。



しかし、そもそも犬の糞処理にそんなに時間と税金を使っていて良いのだろうか? 飼い主の心がけひとつで簡単に解決することなのに。「地雷」というドイツ語には、犬の糞という意味もある。やっぱりみんなそれだけ踏むのを恐れているわけだ。

その一方、こちらに来て学んだ表現に、「幸運に足を突込む」という慣用句があり、これは「糞を踏む」というのを婉曲に表現したもの。見事なポジティブ・シンキング! 逆境に強いゲルマン魂がこんなところにも伺えると、これまた妙に納得してしまうのである。

(1ユーロ=約160円)

池永 記代美



オーストリアで見かける可愛い犬型看板。芦屋でもこんな看板を作りたいですね。

芦屋市のマナー条例では、犬の糞放置とノーリードでの散歩は禁止されています。(10万円以下の罰金) 愛犬家の皆様! 放置糞ゼロの街づくりを目指して、マナー向上に努めましょう。

動物愛護基金への寄付・物品提供のお願い

- バザー用品提供のお願い (5月中旬 総合公園にて開催予定)
バザー開催日の2週間前位から集める予定です。それまではご自宅での保管をお願い致します。
- バザースタッフ募集 (日曜日に参加できる方)
午前中み/午後のみ/最初の準備と最後の片付けのみ、事前に行う値付け作業のみなどそれぞれのご都合に合わせて参加することも出来ます。
- 寄付依頼 (現金/書き損じ葉書/未使用の古い年賀葉書等)
- ペット用品の提供依頼 (中古品可)
犬小屋/バリケン(輸送用ケージ)/サークル/キャリーバッグ/首輪/リード/未開封のドッグフード・キャットフード/ペットシート/毛布類など

野良猫への避妊・去勢手術、そのための捕獲については当協会までご相談下さい。(助成出来る場合もあり)